

# AutoCADと一体型データ編集ソフト **ACD TOACD** **ACD MGACD**



**Kernel Computer System**  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

**AutoCAD を利用した編集ソフト【AutoCAD 2012 まで対応】**

## 特長

1. DWG→DXF 変換, DXF→DWG 変換を行います。  
AutoCAD レギュラー版を利用して DWG, DXF データを読み込み、新規の DWG, DXF データに出力します。  
これにより、DWG→DXF, DXF→DWG への変換を行います。同じフォーマットへの出力も可能です。
2. 出力 DWG (DXF) のファイル形式が指定できます。  
「AutoCAD 2010 形式」, 「AutoCAD 2007 形式」, 「AutoCAD 2004 形式」, 「AutoCAD 2000 形式」の  
指定が可能です。  
「AutoCAD 2007 形式」から「AutoCAD 2000 形式」等の変換が行えます。
3. AutoCAD で読み込んだデータの図形を編集します。
  - ・クリッピング
  - ・拡大, 縮小
  - ・回転
  - ・イメージ合成 (※ACDMGACD のみ)
  - ・テキスト合成 (※ACDMGACD のみ)
4. 複数の DWG, DXF データを合成します。(※ACDMGACD のみ)  
ファイル毎の編集が可能です。
5. データの画層を操作します。(※ACDMGACD のみ)
  - ・指定した画層の削除
  - ・画層の情報をテキストファイルに出力
  - ・画層の置き換え
6. バッチ起動により連続実行が可能です。

## 対応 OS

Windows 2000 / Windows XP / Windows Vista / Windows 7

## 標準価格

製品名	価格
ACD TOACD	25 万円 (税抜き)
ACD MGACD	35 万円 (税抜き)

## 操作方法

ACDUTOACD, ACDMGACD はコマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じようにコマンドラインからの実行や、バッチファイルへの組み込みが可能です。

「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開き、その中で実行します。変換時にオプションを指定することで様々な変換処理が可能となります。

変換を実行するには次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
>ACDMGACD 入力ファイル -O 出力ファイル -各オプション
```

[操作例]

入力ファイル[CLIP.dwg]の左下座標(10, 20)、右上座標(100, 150)の座標内にある図形をクリップし CLIP\_OUT.dwg に出力する。

```
>ACDMGACD CLIP.dwg -OCLIP_OUT.dwg -CL10 -CB20 -CR100 -CT150
```

## 実行時のオプション

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| -O[ファイル名]                   | : 出力結果ファイル名を指定します。  |
| -CL[left]                   | : クリッピング範囲の左側を指定します。  |
| -CR[right]                  | : クリッピング範囲の右側を指定します。  |
| -CT[top]                    | : クリッピング範囲の上側を指定します。  |
| -CB[bottom]                 | : クリッピング範囲の下側を指定します。  |
| -ALL                        | : 全図形をクリップします。  |
| -CLIP_BASE[X, Y]<br>[kiten] | : クリップされた図面を別のデータに合成する際に基点となる座標を指定します。(※ACDMGACDのみ)<br>kiten = 1: オブジェクト範囲の左下を基点とします。( -CLIP_BASE1)<br>2: オブジェクト範囲の右上を基点とします。( -CLIP_BASE2) |
| -ERLAYER[ファイル名]             | : 指定された画層を削除します。(※ACDMGACDのみ)   |
| -LAYEROUT[ファイル名]            | : 変換結果データに存在する画層情報をテキストに出力します。(※ACDMGACDのみ)   |
| -P[size]                    | : 出力したい用紙サイズを指定します。(A0~A5)  |
| -R[rot]                     | : 回転を指定します。(90, 180, 270 度)   |
| -S[scale]                   | : スケール値を指定します。<br>※-P が指定されているときはそちらの指定を有効にします。   |
| -TEXTMERGE[ファイル名]           | : テキスト、イメージファイルの合成情報ファイルを指定します。(※ACDMGACDのみ)  |

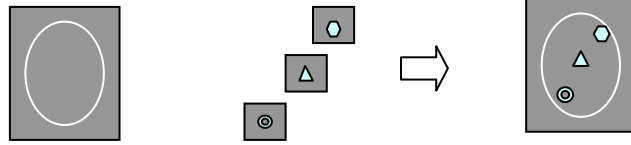
-MERGE [ファイル名]

:複数の DWG, DXF データの合成処理を行います。(※ACDMGACD のみ)  
Merge\_file に合成する AutoCAD データの情報を記述します。  
前もってこのファイルをテキストエディタなどで作成しておく必要があります。

<既存のデータに対する合成>

次のように入力ファイルを指定して実行すると、合成指示ファイルで記述したデータが、そのファイルのデータ上に合成されます。

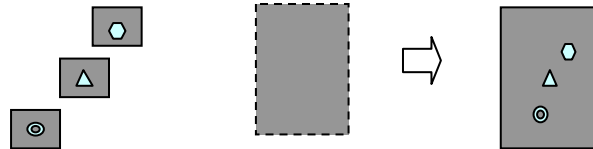
```
ACDMGACD infile -MERGEmerge file -Ooutfile
```



<合成によって新規にデータを作成>

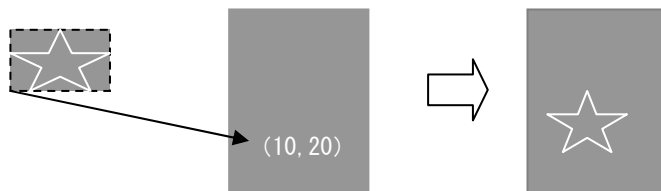
次のように入力ファイルの指定を省略して実行すると、新規に作成されたデータ上に合成されます。

```
ACDMGACD -MERGEmerge file -Ooutfile
```



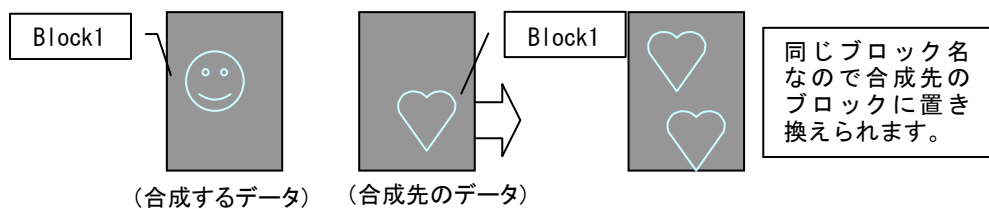
-COMORG [X, Y]

:指定データの合成する位置を指定します。(※ACDMGACD のみ)  
データの基点を指定された位置に挿入します。



※合成処理時のブロックについての注意事項

合成先のデータに合成するデータと同じブロック名が存在した場合、  
合成するデータのブロックは合成先のブロックに置き換えられます。



-LOG

:ログファイル名を指定します。

-Q

:ヘルプメッセージ

-QV

:バージョン情報

-RIREKI [ファイル名]

:履歴ファイルを出力します。(XML 形式)

-QS [ファイル名]

:DWG, DXF データの図形範囲の最大・最小値を取得し、クリップ指定の有効なエリアとしてテキストファイルに出力します。

-NODISP

:このパラメータを指定すると、プログレスバーが表示されなくなります。

-MODE[flg]

:AutoCAD の起動、終了のモードを指定します。

- 0:AutoCAD が既に起動されていれば、その AutoCAD を使用し変換を行います。起動されていなければ AutoCAD を起動し変換を行います。変換後 AutoCAD を終了しません。
- 1:AutoCAD が既に起動されていれば、その AutoCAD を使用し変換を行います。起動されていなければ AutoCAD を起動し変換を行います。変換後 AutoCAD を終了します。(デフォルト)
- 2:AutoCAD が既に起動されていれば、その AutoCAD を終了させます。変換を行いません。

-BATCH[batchfile]

:バッチファイルで指定されたファイルまたはディレクトリ内のファイルを一括処理します。

<使用方法>

処理内容を記述したバッチファイルを-BATCH オプションで指定し実行します。

```
>ACDMGACD -BATCH[バッチファイル名]
```

<バッチファイルの指定方法>

バッチファイルの指定方法は下記の通り

入力ファイル -O 出力ファイル [オプションパラメータ]

<バッチファイルの例>

- (1) 指定された領域を編集し新しいファイルを作成します。

```
Data1.dwg -CL10 -CB10 -CR100 -CT200 -S0.8 -OnewData1.dwg  
Data2.dwg -ALL -P4 -OnewData2.dwg
```

- (2) 同じディレクトリのデータを A4 に編集し新しいファイルを作成します。

```
C:¥test¥*.dwg -ALL -P4 -OC:¥test¥*.dwg
```

<制限事項>

- ・バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大 255 文字までです。
- ・スペースを含むファイル名を指定することはできません。
- ・入力ファイル名にワイルドカードを指定した場合、処理されるファイルの順番はアルファベット順になります。
- ・出力ファイル名には、必ず拡張子を指定してください。
- ・バッチファイルの中に-BATCH オプションを記述することはできません。

## 制限事項

- ◆ ファイル形式の変換のみを行う場合は、モデル空間・ペーパー空間ともに変換可能です。クリッピングなどの編集機能を指定される場合は、変換対象はモデル空間のみとなります。
- ◆ クリッピングやスケーリング等の図形の編集を行った場合は、レイアウト等の情報は失われます。
- ◆ 出力される DWG/DXF ファイルの内容は AutoCAD の保存機能に依存します。
- ◆ 多重起動はできません。
- ◆ クリップ機能を使用される場合、領域内にオブジェクトが存在しないと出力ファイルは出力されません。
- ◆ **AutoCAD 2004 以降**のセキュリティがかかっているデータに関しては変換ができません。
- ◆ 変換中に AutoCAD 画面が表示されますが、**オペレーティングを行わないでください**。  
もし、オペレーティングを行い AutoCAD が終了されなかった場合、特に問題はありませんが手動で AutoCAD を終了させてください。また、**非表示の状態で止まっている場合**もありますので、その場合は**タスクマネージャから AutoCAD を終了**させるかまたは、-MODE2 を指定して終了させてください。
- ◆ **AutoCAD LT 版では動作しません**。
- ◆ サービス上での動作には対応していません。